

全身を銀黒のガルバリウムで包んだシャープな外観が#2の特徴のひとつで、あたかも工業系の事務所のような印象が既存の住宅にはないユニークなポイントです。ガレージはクルマ好き、バイク好き仕様であることはお約束の二方向開放。1階にはガレージリビングも設置しており、仕事場所としても活用可能です。



Theme

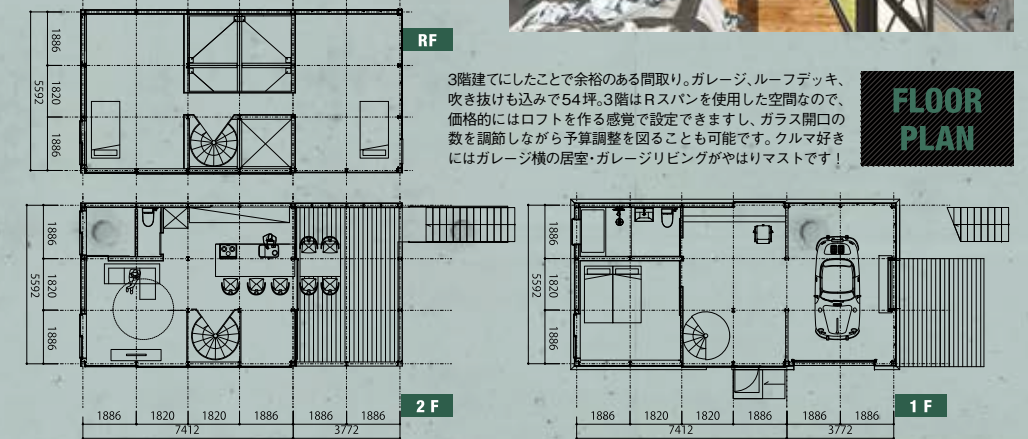
空間のコントラストが脳細胞を元気にする
楽しい暮らしの進化系

『ROOF DECKER #2』

今回提案するのは、世田谷ベースでも活躍している曲面屋根「Rスパン」を利用して、空間のリズム感を演出した「ROOF DECKER」の3階建てバージョンです。



ルーフデッキ空間から室内の吹き抜け空間を望んだアングル。キッチン背面の壁が、外部まで伸びてくるところがミッドセンチュリーデザインの作法。クールな外観にコントラストを添える木質系など、室内には素材感の豊かな材料を使いたいところです。このフロアプランなら雨の日でも食事ができるルーフデッキから、吹き抜けを経由して3階の子供部屋の気配を感じることにも出てまいります。これこそ一体空間の魅力です。



3階建てにしたことで余裕のある間取り。ガレージ、ルーフデッキ、吹き抜けも込みで54坪。3階はRスパンを使用した空間なので、価格的にはロフトを作る感覚で設定できますし、ガラス開口の数を調節しながら予算調整を図ることも可能です。クルマ好きにはガレージ横の居室・ガレージリビングがやはりマストです！

INFORMATION
LDKinc.

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表: 玉田 敦士
WEB: www.ldk.co.jp
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP
www.daytona-house.com

前回ご紹介した「ルーフデッキ」は、屋根つきのルーフデッキが、外部の自然とリビング空間の新しい関係を予感させるものでした。キッチンと連続したルーフデッキで、家族の食事やくつろぎの時間などプライベートな用途だけでなく、親しい友達との時間を共有する場所としても最適です。それはあたかも昔の日本家屋に存在した土間や縁側のように、多目的に使用しながら外部の自然と住居間のフィルターのような機能を果たします。今回は、その考え方をさらに発展させて、世田谷ベース増築工事でも活躍した曲面屋根「Rスパン」を活用した3階建てバージョン「ルーフデッキ」#2（以後#2と表現）をご紹介します。

この#2最大の特徴は、リビング空間の上にある豊かな吹き抜けとその両側に位置するロフト風の居室空間のリズム感で、ガレージ上のルーフデッキ部分には少し抑えた天井、逆に室内にはダウンと吹き抜けを設けてみました。この高低差が生む、相乗効果がそれぞれの空間の特長を引き立てるのです。2階と3階が一体空間なので子供の寝室からもルーフデッキが感じられる構成。考えただけでも楽しそうに部屋に引きこもるなど無縁の空間なのです。

Rスパンは、カニや、フナ虫のように骨格で構築しているため、そのR曲面で剛性を確保できる優れものです。だからこの吹き抜けのロフト空間には柱や梁がなく、純粹な吹き抜けが実現出来たわけです。これは価格の点でもメリットがあるのです。外壁を断熱性のあるガルバリウムでシャープに決めた#2の価格は、坪当たり70〜75万円（設計費別途）を設定。まさに伸びやかに暮らしていきたい人に打って付けなプランです。

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽鋼鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

